

# 魚沼漁協だより

NO.78

令和2年1月1日

発行 魚沼漁業協同組合  
組合長 皆川 雄二

魚沼市佐梨 1105-16  
TEL (025) 792-0261



## あけまして おめでとーうございます

代表理事組合長 皆川 雄二

平素より魚沼漁業協同組合の各種事業にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。昨年五月から令和の時代に入りました。慶祝

のムードの一方で、地球温暖化等の影響から自然災害が多く発生した年でもありました。

さて、昨年の河川状況等を振り返りますと、降雪状況においては、平年並みでしたが、三月中旬や四月の遅い降雪があり雪解けは遅く、雪代の影響など水温の上昇が遅れる春となりました。また、梅雨入りが早く、梅雨明けが遅い長梅雨で、日照不足など放流魚にとつては厳しい状況が続きました。加えて、台風の上陸も多く、記録的な増水と濁水の多い年であったと感じています。

アユについては、村上産種苗（中間育成種苗）の成育は良好で、平均約7gの種苗を七十万尾、野積の海産稚アユも近年になく多く捕獲でき平均二・四g八百三十kg、三十四万尾の放流のほか山形県産を千四百kg、十七万五千尾確保し、例年以上の良質な稚魚放流ができました。しかしながら、放流後では、前述の低水温、日照不足で成長が著しく悪く、さらに七月に入つての線状降雨、相次ぐ台風五号、六号の影響で特に上流部では漁期を通しての不漁となりました。特徴として、台風後は洪水や濁りなどのストレスに強い天然海産アユが順調に育つて、後半の中

流域では友釣りやゴロカケで捕れましたが、全体としては不漁となり、遊漁者も前年に比し、大幅に減少しました。

渓流魚は、稚魚の生産も良かったことなどから前年に続き義務放流数を大きく超えての放流のほか、支部、分会、遊漁者の要望に応え、漁協で育てたイワナ、ヤマメの大型成魚の放流を行ってきました。本年は本流の大型ヤマメが釣れたという声が多く聞かれ、遊漁者数も概ね順調でした。

秋サケは、例年、伊勢島で九月下旬から十月下旬までの間、一括採捕を行います。開始後は順調に捕れましたが、十月十三日の台風十九号でウライが水没し、以降、二週間以上採捕ができない状況となりました。このことにより、目標の半分以下の採卵にとどまり、昨年に続き大不漁となりました。このため他県などから四十五万粒を購入し、四年後の増殖に資することとしました。また、本年の早期群サケは昨年と同様に極めて小さいものが多く、原因の究明が求められるところです。なお、十一月中旬に入つてからの後期群のサケの組合員による特別採捕状況は近年になく良好でした。

その他のコイ、フナ、カジカ等は原則、義務放流数を確保し放流しましたが、ウナギは稚魚の確保ができず、約半数の七十五kgにとどまりました。

また、本年は新規収益事業として、昨年の銀ザケに続き、サクラマスの養殖にチャレンジしましたが、病気の発生もあり、目標を大きく下回る水揚げとなりました。

魚沼漁協では組合員が毎年百人以上減少する状況にあり、また、関東圏から訪れる遊漁者も減少してきて、年々、組合財政が厳しくなっております。このことから昨年、十年後の将来像を掲げた「中长期ビジョン（計画）」を策定し、昨年は四つのプロジェクトチームを立ち上げ、現在も取り組んでいます。なかなか特効薬はありませんが、持続できる組合となるためにも、大勢の組合員の皆様から引き続き建設的なご意見や激励をいただければありがたいと思っております。

結びに、本年は役員の改選による新たなスタートの年にあります。十二支の一番目の子年は、植物にたとえると新しい生命が種子の中にぎざし始め、新しい物事や運気のサイクルの始まる年になるそうです。

本年が皆様にとつて、そして組合にとつて、良き豊漁の年になることをご祈念申し上げ、新春のご挨拶いたします。



サケつかみ取り

# 内水面漁業協同組合の将来について

新潟県内水面水産試験場

場長 米山 洋一



皆様には、日頃より内水面水産試験場の調査・研究について、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

私事ですが、昭和六十一年四月に新潟県に入庁し、はや三十三年が経ち、これまで、研究に八年間、行政に二十五年間勤務してきました。この間、村上でのアユ種苗生産、内水面水産試験場での資源調査等の勤務がありましたが、この度二十二年ぶりの試験場への復帰は、ようやく自分の道に戻れた、という気持ちです。

振り返ってみますと、生まれ育った魚沼より他での生活の方が長くなりました。魚沼の自然の中で幼少期を過ごし、川遊びなどがあったから今の自分があることに間違いありません。残念ながら、子供たちを魚沼のような自然の中で育てることはできませんでした。幾度かは川に連れて行ったり、キャンプをしたりしましたが、十分な経験や学習をさせることはできなかったように思います。今の子供たちの多くは、テレビゲーム、パソコン、携帯電話、インターネット等の環境の中で育っています。便利な社会になり、これらの知識や技術の取得が必要とは思いません

が、ふと疑問を覚えます。生き物である人間はやはり自然の中で学び、育つことが必要なのではないのでしょうか。子供の頃に経験した川遊びや魚とりは、その後の人間形成に大きな役割を担っていると思います。

さて、皆さんが切実にお感じのことと思いますが、河川を守る漁業協同組合の組合員が大きく減少しています。このことは、今後の河川環境の維持・管理に大きく影響し、また、何よりも組織そのものの存続が危惧されます。速やかな対策が必要な状況にはありませんが、今から、直ちに組合員数を増やすことは難しいでしょう。では、どうしたらいいでしょうか？昨今の社会情勢を鑑みると、あらかじめ、組合員候補を育てるための下準備が必要なのではないのでしょうか。テレビゲームやパソコン、スマートフォン等の普及は子供たちの自然への興味を奪い、将来的にも川に興味を持つことはなくなるように思います。このような状況を打破し、将来を担う組合員を育てるためには、子供たちから川に触れてもらう機会をつくり、人材育成をしていくことが必要のように思います。



こども放流

とはいえ、このままでは、当面の組織運営が立ち行かなくなってしまう。従来型の組合員の賦課金と遊漁券収入に頼るだけではなく、創意工夫をもった取組、組織運営が必要ではないでしょうか。魚沼地域の限られた範囲で考えるのではなく、都会の人たちのニーズを取り込み、そこに応えていくような取組みがあつていいように思います。川と触れ合いたくともできない人、釣りをしたくともノウウハウをもっていない人、天然アユが食べたくとも食べることでできない人など、様々なニーズを持っている人々がいます。このニーズに伝えていくことが漁業協同組合の生きる道の一つとはならないでしょうか。具体的には、敷居の高いアユの友釣り教室の開催、天然アユの販売等にマーケットはあるように思います。実行するための仕組みづくりが大

変ですが、新たな取組みにより活路を見出せるように思います。

また、魚沼地域の振興を考えた場合、その強みは自然であり、その中でも魚野川は大きな財産、武器ではないでしょうか。魚沼地域における内水面漁業の振興は、まさに地域振興であり、観光産業と連携した取組を行うことが大切だと思います。漁協単独ではなく、飲食業、観光業と連携した企画作りを行うことで、都会の人々の興味を引き、喜んでもらえる企画ができると思います。

まさに、大変な時期に直面しておりますが、皆さんの知恵と工夫でこの難局を乗り切つていただきたいと思えます。

内水面水産試験場では、ベースとなる資源の維持・増大に向けた研究を継続していきますが、皆様の取組みの中でお手伝いできることがあればご協力させていただきたいと思えますので、よろしくお願いいたします。



アユ塩やき

# チャレンジ魚沼漁協「中長期ビジョン」の実施

魚沼漁業協同組合の経営は、組合員及び遊漁人口の減少などによって、極めて厳しい状況となっており、さらに今後もこの傾向は続いていく状況にあることから、危機感をもって十年後の組合像を見据えた「魚沼漁業協同組合中長期ビジョン（計画）」を策定し、課題の検討と実施の取り組みをはじめたところです。

そうした中、全国内水面漁業協同組合連合会が募集した交付金事業「やるぞ内水面活性化事業」が創設されたことから、このチャンスを生かすべく提案し、なんとか全国十カ所の事業に採択してもらえなくなりました。

この事業では、これからの当漁協運営の方向性を探るうえで大きな課題を選択して四つのプロジェクトチームを設置し、検討しています。まだ、成果を報告できる段階にありませんが、その活動の一端をお知らせします。

## ① 中長期ビジョン検討委員会（プロジェクトチーム） 委員八名

・中長期ビジョンの目標達成に向けた事業実施のための事業検討  
 【中長期ビジョン 実施計画書 兼 事業評価書】を整備し、今後進めようとする各事業別の実施計画や事業評価（P・D・C・Aサイクル）を行っていく仕組みをつくり、検討する組織。



オーナー返礼品の検討

## ② 稚魚放流オーナー募集制度検討プロジェクトチーム 委員六名

クラウドファンディングにより放流魚のオーナーを募集し、一口定額の増殖放流への協賛を求め、オーナーには返礼として魚沼漁協の生産加工物を贈呈する制度の検討及び新たな生産加工物を試作する組織。

・購入型クラウドファンディングの検討  
 ・返礼品の模索と試作返礼品の製作

## ③ 放流ゾーニング・モニタリングプロジェクトチーム 委員七名

当組合は、溪流相から河口付近までの流域、あるいは銀山湖などのダム湖、湖沼の多岐にわたる五市一町に及ぶ漁

業管理区域を有し、アユ釣り専用区、キャッチアンドリリース区域、フライフィッシング専用区、永年種川禁漁区などが禁漁期間の設定とともに整備されてきました。現行においては、漁業者や遊漁者のニーズと漁協の財政能力を含め、必ずしも河川条件や特性に相応した有効活用や効率的な放流魚種、放流量となっていない状況も散見されつつあることから、漁業や遊漁の実態調査をして伸ばしていく部分と見直しすべき部分などを明らかにし、広域の漁業区の特徴を生かしたゾーニングにより将来にわたって漁業、遊漁の効率化につなげていくことを検討する組織。



ゾーニングの検討



アユ発眼卵（シュロ）これから野積へ

## ④ 天然遡上アユ資源の回復プロジェクトチーム 委員七名

魚野川でふ化したアユ仔魚の流下（降下）を阻害している堰（信濃川妙見堰）があることや近年、大野津分水路（野積地内で汲み上げ採捕）の天然遡上アユが激減しており、さらに大野津分水路の本格工事が着工されたことによる魚野川の天然遡上アユ資源への影響を危惧しています。

このことから、上流の魚野川（魚沼市内）で早期に産卵する天然親魚アユから採卵し、人工授精による発眼卵を大野津分水路まで移設のうえ敷設し、集約的なふ化管理により天然遡上アユの回復を図ろうとするものです。

# 任期満了による総代選挙及び

# 役員選任について

今年には任期満了に伴う総代選挙並びに、役員を選任が行われます。昨年十二月開催された理事会で総代選挙の日程を決定しましたので、お知らせいたします。

### ○総代選挙

一、選挙期日 令和二年三月十一日(木)  
なお、立候補者が選挙する総代の数を超えない選挙区については投票を行いません。  
二、定款第四十五条に定める選挙区ごとの定数は左表の通りです。

選挙区名	定数	選挙区	定数
第1区 湯沢町地区	8名	第6区 破間郷地区	11名
第2区 旧塩沢町地区	15名	第7区 堀之内川口地区	8名
第3区 旧六日町地区	18名	第8区 小千谷市地区	8名
第4区 旧大和町地区	9名	第9区 長岡市地区	8名
第5区 小出郷地区	15名	合 計	100名

### 三、選挙管理者及び立会人

選挙管理者 星 和男  
選挙立会人 町田 誠  
通所 立男  
小池 信通  
中林 孝  
選挙区選挙の管理者及び立会人は各支部長からの推薦者を充てる。

### 役員候補者推薦

一、役員候補者の推薦から総代会議決までの手順  
（一）各支部長から役員推薦委員候補者を推薦してもらい組合長が任命する。  
（二）役員推薦委員は各地区ごとに推薦会議を開催し地区の役員候補者を決定し、組合長に報告する。  
（三）組合長は各地区から推薦された役員候補者を議案として総代会に提案し選任する。

### 役員推薦会議構成区域並びに役員推薦委員定数及び役員候補者定数

定款第45条に定める地区	役員推薦委員定数	理事候補者定数	監事候補者定数
第1区 (湯沢町地区)	3人	1人	1人
第2区 (旧塩沢町地区)	4人	2人	
第3区 (旧六日町地区)	4人	2人	
第4区 (旧大和町地区)	4人	1人	1人
第5区 (小出郷地区)	7人	2人	
第6区 (破間郷地区)	5人	1人	1人
第7区 (堀之内川口地区)	2人	1人	
第8区 (小千谷市地区)	3人	1人	
第9区 (長岡市地区)	4人	1人	

## 編集後記



昨年の流行語大賞に「ワンチーム」が選ばれました。

屈強な身体と精神を持つ男たち、ラグビーワールドカップ日本代表チームが結束力を高めた合言葉です。

ついには史上初のベスト8まで進んだその戦いぶりは、ルールすらよくわからない私を含め、日本中に多くのファンをつくり心を熱くさせてくれました。

あとで知ることですが本県出身の「笑わない男」が泣くように、ここに至る過程での多くの犠牲と個々の物語からも深い感動をもらいました。また、試合が終われば全てを水に流し、敵も味方もなく互いを尊重する「ノーサイド」のスポーツ精神も領けます。

さて、チームといえば、我が漁協も「中長期ビジョン」の具体的取組みのため、現在四つのプロジェクトチームを設置し、これからの漁協の未来に向けた取組を研究するとともに、試行を行っています。

居並ぶメンバーは屈強揃いとはいえず、先には難題も高い壁もあります。ワンチームとしてトライし、「笑う男たち」になることを目指しています。組合員の皆さんから熱い支援とご協力をお願いします。

### あけましておめでとうございます



代表理事組合長 皆川 雄二  
副組合長理事 鈴木 政幸  
理事 星 和男・町田 誠



代表監事 星 和男  
監事 米山 信男  
星野 勇二・永井 昭夫

職員一同